

一九五五年八月二十五日
発行



第38卷 第5号

史学・地理学・考古学

- 応劭「火耕水耨」注より見たる後漢江淮……米田賢次郎(1)
の水稻作技術について
- 銀生産の動向、銀山町の構成……小葉田淳(19)
——院内銀山の研究(IV)——
- 宋太祖酒癖考……荒木敏一(44)

資料紹介

- 鶴岡本御成敗式目の四声点並乎古止点について……池内義資(56)
- 摂津豊川村南塚古墳調査概報……川端眞治・金関恕(63)

書評と紹介

- 秦玄龍：イギリス・ヨーマンの研究……富沢靈岸(69)
- 柴田実：庄園村落の構造……村井康彦(73)
- 尾留川正平：経済地理……大島襄二(77)
- 井駿：岡山県古文書集……石田善人(80)
野恭一郎

東洋史研究
大學文學部東洋史研究室
計報
學界消息

東洋史研究

史学研究会

京都大学文学部内

販替口座京都三七八

史学研究会大会予告

左の日程で本会及び連合大会を開催いたしますので多数御参加下さるよう御案内申し上げます

○十一月一日(火)

見学 法隆寺・中宮寺。

(解説)

浅野 潜氏

○十一月二日(水)

大会及び総会(会務報告) 京大薬友会館

(講演) 若狭漁村の地理学的研究

若狭漁村の歴史学的研究

ローマ帝政成立の社会的背景

織田 武雄氏
小栗田 淳氏
井上 智勇氏

晩餐会 京大薬友会館

○十一月三日(祭)

読史会(国史)・東洋史談話会・西洋史読書会各大会及び晩餐会

詳細なプログラムは十月下旬にお送りします。会員の方で大会出席のため、公用出張依頼状の必要な方は、なるべく早く本会宛御連絡下さい。十一月一日の見学会費は三〇〇円で学内バスを利用します。参加御希望の方は会費を添え十月十日迄に本会宛お申込下さい。但しバスには定員がありますので、御希望に副いかねます際は御了承下さい。参加していただける方には御案内をお送りしますから、当日御持参下さい。(当日受付は致しません)

史学研究会

会員各位

業績の一部を以下に示したい。

石鼓為秦刻石考『国学季刊』第一卷 一期

一九五三年刊

漢熹平石經論語魏曰篇殘字跋『国学季刊』

第一卷 三期 一九五三年刊

新鄭古物出土調査記『東方雜誌』第二二

卷二期 一九二五年刊

孟津出土古器物紀事

隋書律曆志十五等尺 一冊(一九二七年刊)

集拓新漢魏石經殘字 四冊(一九二七年刊)

中国之銅器時代『北大国学月刊』第一卷

六期 および『考古学論叢』第一冊 一

九二八年刊

戈戟之研究(『燕京学报』第五冊および『考

古学論叢』第二冊一九二九年、一九三〇

年刊)

記漢「居延筆」(『国学季刊』第三卷 一期

一九三二年刊)

従実験上窺見漢石經之一班(『慶祝蔡先生

論文集』上冊 一九三三年刊)

新嘉量考釋(『故宮博物院年刊』一九三六年刊)

宋茫祖禹書古文孝經石刻校積(『歴史語言研

究所集刊』第二〇本 一九四八年刊)

(水野清一)

岡山大学助教授三吉希氏記

岡山大学助教授三吉希氏は、去る六月二十日萎縮腎で逝去された。氏は昭和二十一年九月京都大学を卒業後、特別研究生として研究に精進され、一時郷里高知県宿毛・中村両高校に教鞭を執られたが、二十七年一月国史研究所助手として再び京大に帰任された。氏は助手として研究室運営の劇務に当られた期間、内外の状勢多難を極め氏の費された心労も一方ならぬものがあつた。傍ら本会庶務委員として例会運営その他の実務に心肝を砕かれ、会の急速な發展に寄与される処少くなかつた。その温厚、而も泰然たる風格は周囲の挙げて仰慕する処であり、二十八年十二月岡山大学に赴任後も、各方面の尊敬を集められ、また死の直前迄学生を指導されたと承り、嚴肅襟を正さしめるものを覚える。

不幸三十四才にして夭折された氏には、「佐藤直方の学問論」(本誌三六ノ一)をはじめ、専攻の近世思想史、特に儒学史に関する論稿があるが、その何れも氏の温かく、しかも真摯な人間追求の態度を窺うに足るものである。

幸いにして家庭も持たれ、岡山に落着かれ、

今後の活躍を最も期待された人であつただけに、哀傷は一入であるが、今は氏の御冥福を祈り、併せて御遺族の御多祥を念願するばかりである。

(上横手雅敬)

執筆者紹介

- | | |
|-------|--------------|
| 米田賢次郎 | 京都大学助手 |
| 小葉田 淳 | 京都大学教授 |
| 荒木 敏一 | 京都学芸大学教授 |
| 池内 義資 | 今治高校教諭 |
| 川端 眞治 | 京都大学大学院学生 |
| 金 関 恕 | 京都大学大学院特別研究生 |
| 富沢 靈岸 | 島根大学講師 |
| 村井 康彦 | 京都大学大学院学生 |
| 大島 襄二 | 同志社高校教諭 |
| 石田 善人 | 京都大学大学院特別研究生 |

学界消息

史学研究會關係

史学研究會例会 六月四日(土)午後一時

京大文学部第八教室

物庄制の歴史的意義

石田 善人

地方都市と農業

渡辺 久雄

ビルトダウン人問題について

有光 教一

國史關係

読史會例会 五月二八日(土)午後一時

京大史学科演習室

防人考—東國と西國

岸 俊男

明治初期大阪周辺における商品生産と階層分化の發展

高尾 一彦

大谷史学会大会 六月四日(土)午後一時

大谷大学四一教室

中国の石仏について

水野 清一

紀州花園村大般若経の書写と流伝

五来 重

日本史研究会春季講演會 六月一八日(土)

午後一時 立命大文学部

戦後十年の歴史学の歩み

北山 茂夫

経済学教科書と歴史学 岩井 忠熊

大阪歴史学会春季大会 六月二六日(日)

午前九時 関西天大学院

封建崩壞期における農民闘争

鷲見 等 隴

H. Thode, Michelangelo und die Ende der Renaissance

地理学關係

谷 泰

東大寺をめぐる政治情勢

角山 榮 岸 俊男

人文地理学会第十二回例会 六月廿五日(土)

京大附属図書館

東洋史關係

西藏学会 五月二一日(土)午後二時

京大史学科演習室

アムド方言について

西田 龍雄

西洋史關係

西洋史読書會例会 六月二九日(水)

京大史学科第二教室

R. Rolland, Journal des annés de la Guerre (1914—1919)

高田 彬 臣

市場連鎖とC. B. D(中央業務地区)の限界について 樋口 節夫

紀ノ川河岸における古墳の位置についての考察 近藤 忠

京都府竹野郡網野町小浜海浜縄文遺蹟の調査

網野町教育委員会の委嘱により、六月廿四日より三日間、京大考古学教室より樋口隆康講師が同地に赴き、海浜砂丘下に埋没せる縄文式前期末の土器の包含層を検出した。

史学研究會例会

日時 十月一日(土)午後一時

場所 京都大学楽友会館(市電近衛通下車)

水力エネルギーに関する歴史地理

末尾 至行

日本における封建化の過程について

黒田 俊雄

清代淮南塩販路の争奪について

佐伯 富

西ウイグル國史の研究

安部健夫著

九世紀から十三世紀にかけて、今の新疆省グチェンを都としてトルコ人の一大王国が高い文化とともに栄えつづけた。——これこそ、五十年來・百年來の定論や通説のあやまりを正して初めて明らかにされた中世期内陸アジアの実相であり、東西交渉史の研究は、この書の出現を機として全く新しい段階につきいることができよう。

A 5 版・総頁640頁・特製本 ￥ 1,200 円 100

中村印刷株式会社出版部 発売所 彙文堂書店

京都市下京区七条御所ノ内東町
電話 下 ⑤ 468・1710・4354 番

京都市中京区寺町通太町南入
振替口座京都 1158 番

編集後記

記録的な猛暑の中にも、執筆各位の御努力により、第三八巻も、あと特集号を残すだけで、順調な発刊を見ることが出来た。本号の巻頭を飾る米田氏の力作は、現在、学界の問題点の一つである漢代農業技術の解明に、大きな示唆を与えるものであろう。小葉田教授の論説は、さきに発表された同教授の研究に引き続き続いた労作をなすものであり、荒木氏の興味深い研究、池内氏等の資料紹介と共に力作揃いで、読者の御期待に応えるものと思う。尚去る七月二日、史学研究会特別例会で行われた「時代区分及び地域区分の問題」のシンポジウムは、従来と異なる新しい試みであつたが、次号にその要旨を掲載したいと思つている。次号の共同特輯と共に、会員諸賢の御批判を承りたいものである。(金関)

一九五五年 八月二十五日印刷
一九五五年 九月 一日発行

定価 百円

史 林 (第三八巻 第五号)

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

発行所 史学研究会

振替 京都 五一五五番

理事 長 原 隨園
編輯 主任 赤松 俊秀

印刷所 中村印刷株式会社
京都市下京区七条御所ノ内東町三九

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XXXVIII, NO. 5

Sep. 1955

CONTENTS

Articles:

- The Technique of Rice Cultivation in Ch'iang Huai
(江淮) at Later Han (後漢) *K. Yoneda* (1)
- The Innai (院内) Silver Mines IV *A. Kobata* (19)
—The Output of Silver in the Innai Silver Mines:
The Structure of the Silver Mine Town—
- T'ai tsu (太祖) of Sung (宋) and Liquors *T. Araki* (44)

Short Notices:

- Punctuation of the Tsurugaoka Draft of the Goseibai-
shikinoku (鶴岡本御成敗式目), or the Constitution
of the Kamakura Government *Y. Ikeuchi* (56)
- Preliminary Report of the Excavation of Tumuli at
Minamizuka (南塚), Toyokawa (豊川村),
Setsu (摂津) *S. Kawabata* (63)
H. Kanaseki

Book Reviews & News

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI
(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan